

開催案内

マンスリーセミナー

419 回	4/17 (火)	コンピュータビジョン技術を用いた 画像/動画認識	国立研究開発法人産業技術総合研究所 知能システム研究部門 コンピュータビ ジョン研究グループ 研究員 片岡 裕雄 氏
<p>(内容) コンピュータビジョン(CV)分野においてはこの数年で認識精度が飛躍的に向上し、応用可能性に広がりを見せている。本講演では CV 分野の最近の動向や応用例を概観することで「現在できていること」を知る。また、講演者の研究フォーカスである画像や動画認識、人物解析のみならず、加速する流れの中で如何に研究を展開するか、どのようにテーマを考案すれば良いかについて述べる。</p>			
420 回	5/22 (火)	IoT社会の進展を支える 次世代大容量シリコンフォトニクス技術	技術研究組合光電子融合基盤技術研究所 主幹研究員 集積デバイスチームリーダー 田中 有 氏
<p>(内容) あらゆるヒト、モノ、コトがネットワークでつながり仮想空間と融合する IoT 社会が進展し、ビッグデータとクラウド・エッジコンピューティング、AI などが社会的価値を創造する時代を迎えている。これらの社会環境のデジタル化を支える基盤技術としてコンピューティングの処理能力の持続的発展が必要であり、サーバ規模の拡大に伴ってそれらをつなげるインターコネクットの大容量化がますます要求されている。本セミナーでは次世代光デバイスの本命であるシリコンフォトニクスによる大容量伝送技術の最新動向とその光デバイスの開発状況について報告する。</p>			
421 回	6/19 (火)	ナノカーボン材料を用いた チップ上光電子デバイス開発	慶應義塾大学 理工学部 物理情報工学科 准教授 牧 英之 氏
<p>(内容) カーボンナノチューブやグラフェンといったナノカーボン材料は、その原子オーダーで小さな構造に起因して、特異な電気伝導特性が発現することから、トランジスタや導電膜のような電子デバイス用材料として注目されてきた。一方、近年は、その特異な量子力学的効果や、光物性、熱物性も利用して、量子デバイスや情報通信用の光・電子デバイス用の材料としても注目されてきた。本講演では、ナノカーボン材料を用いた発光素子や受光素子などの光・電子デバイス、超伝導ナノワイヤーデバイスや単一光子発生といった量子デバイスなどの研究開発状況について、我々の最近の成果とともに紹介する。</p>			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3 番出口）
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7 階
時 間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分
定 員：60 名（申込先着順）
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500 円（1 回につき・消費税込）
一般参加：3,000 円（1 回につき・消費税込）
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 間瀬
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435
E-mail：mly@oitda.or.jp